

取扱説明書

WZ13-150EX II

平成 29 年 4 月現在

- 本機をご使用になる前に、必ずこの説明書をよくお読みください。
お読みになった後は必ず保管してください。

目次

1. はじめに	1
2. 安全にご使用いただくために	2
3. 安全使用上の注意	3
3-1 作業開始前	
3-2 作業中	
3-3 作業中断または終了後	
4. 高圧洗浄機仕様	5
4-1 仕様一覧	
4-2 標準付属品	
4-3 各部の名称	
5. 操作方法	7
5-1 作業条件	
5-2 運転準備および点検	
5-3 運転始動	
5-4 運転	
5-5 運転中断	
5-6 運転停止	
6. 極寒時の運転及び保管のポイント	10
7. メンテナンス	11
7-1 ポンプ	
7-2 エンジン	
7-3 ノズル	
7-4 高圧ホース	
8. トラブルの原因と対策	13



1. はじめに

このたびはワグナー高圧洗浄機をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

耐久性に優れた高性能な洗浄機ですが、取扱説明書の内容を守っていただければ極端な性能の劣化、機械の破損につながりますので、必ず本取扱説明書をよくお読みの上、正しい手順で安全な作業を行って下さい。

吸水フィルターとラインストレーナを取付け、二重フィルターによりポンプにゴミが入るのを防ぎ、消耗部品の寿命を延ばしました。

水は大切な資源です。

節水にご協力をおねがいします。

2.安全に使用していただくために

本製品は、本書に記載した使用方法に従ってお使いいただく限り、お客様には充分満足いただけるものと信じております。

しかし万一、以下に示した注意を守らない場合は、ヤケド・ケガ・火災・感電などの重大な損害が発生するおそれがあります。

くれぐれも、以下の諸注意をよく読んで頂き、十分理解してからご使用してください。

- 本文中、および本製品に貼付した警告表示で使用している安全標識とその意味は、つぎのとおりです。



その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性が高いものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、障害を負う可能性が想定されるもの、および物的損害の発生が想定されるものを示します。

本文中で【危険】が付いた記載事項は、取扱い上特に重要な注意事項です。

注意を怠った場合には、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が高いので必ずお守りください。

- 本書とは別にエンジンの取扱説明書が添付されていますので、本取扱説明書と併せて必ずお読みください。

3.安全使用上の注意

3-1 作業前

⚠危険

- 作業を安全に行うために、ヘルメット・保護メガネ・命綱等を着用するようにして下さい。
- 閉めきった場所または可燃物のある付近では、決してエンジンを作動させないで下さい。
- 取扱説明書(P11-7 メンテナンス)に基づいて、点検を行ってください。
- エンジンの取扱説明書に記載されている安全性についての説明に従ってください。
- ポンプは、1分間以上の空運転（水のない状態）を行わないで下さい。パッキン類の消耗や損傷の原因となります。
- 本機は水平な場所に設置し、動き出さないよう車輪止めをしてください。
- 建物や設備から1m以上離して使用してください。
- マフラの排気口付近は高温になりますので、燃えやすいものは近づけないでください。
- 燃料タンクや送油管の接合部などから燃料もれが無いかよく確認してください。燃料もれは火災の危険があります。

⚠警告

- エアクリーナーのエレメントのフタは必ず取り付けて始動、運転してください。逆火により炎がふき出すおそれがあります。

3-2 作業中

⚠危険

- 高圧で水を吐出させていますので、ノズルの前には指や手足を入れないで下さい。また、決して他人に向けないで下さい。

⚠警告

- 足場が不安定な場所または高所での作業は、洗浄機に車輪止めをし、必ず命綱を着用して下さい。

⚠注意

- ポンプ運転者は、洗浄作業者を常時監視できる所に位置し、お互いの連絡を密にして下さい。

⚠注意

- ノズルから吐出される水の勢いは大変強く、不用意に引き金を引くと、バランスをくずす恐れがあります。

⚠注意

- ガラス等のこわれやすい材質には、直接吹きつけないで下さい。

御注意

- アンローダのノブの調整で吐出圧力が変化しますので、作業に合わせて調圧してください。
☆最大圧力(14.7MPa)以上には決して上げないでください。
- エンジンマフラーは非常に高温となります。
ヤケドを避けるためにも触れないでください。また、同様にホース類が接触しないように注意してください。
- エンジン作動中または熱い間は、ガソリンの補給は決して行わないでください。

3-3 作業中断または終了時

⚠注意

- エンジン停止後でも、ポンプ、ガン、ホース内には高圧の水が残っています。
ガンの引き金を引いて、圧力を抜いてください。
- ガンの引き金を引かないままでのポンプの作動は、3分以内として下さい。それ以上の時間、中断される場合は、必ずエンジンを停止して圧力を抜いてください。

4.高圧洗浄機

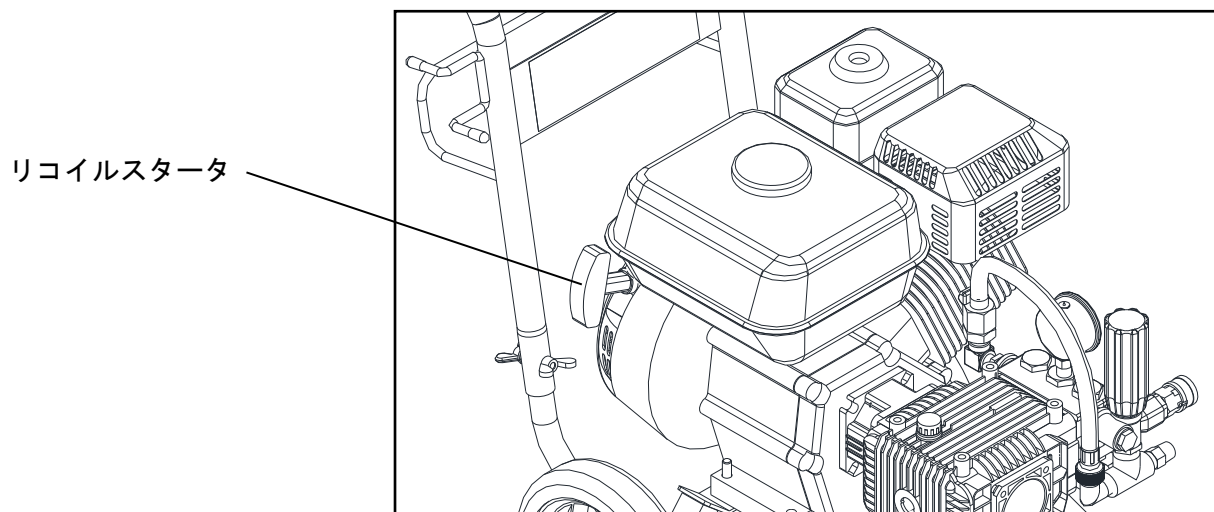
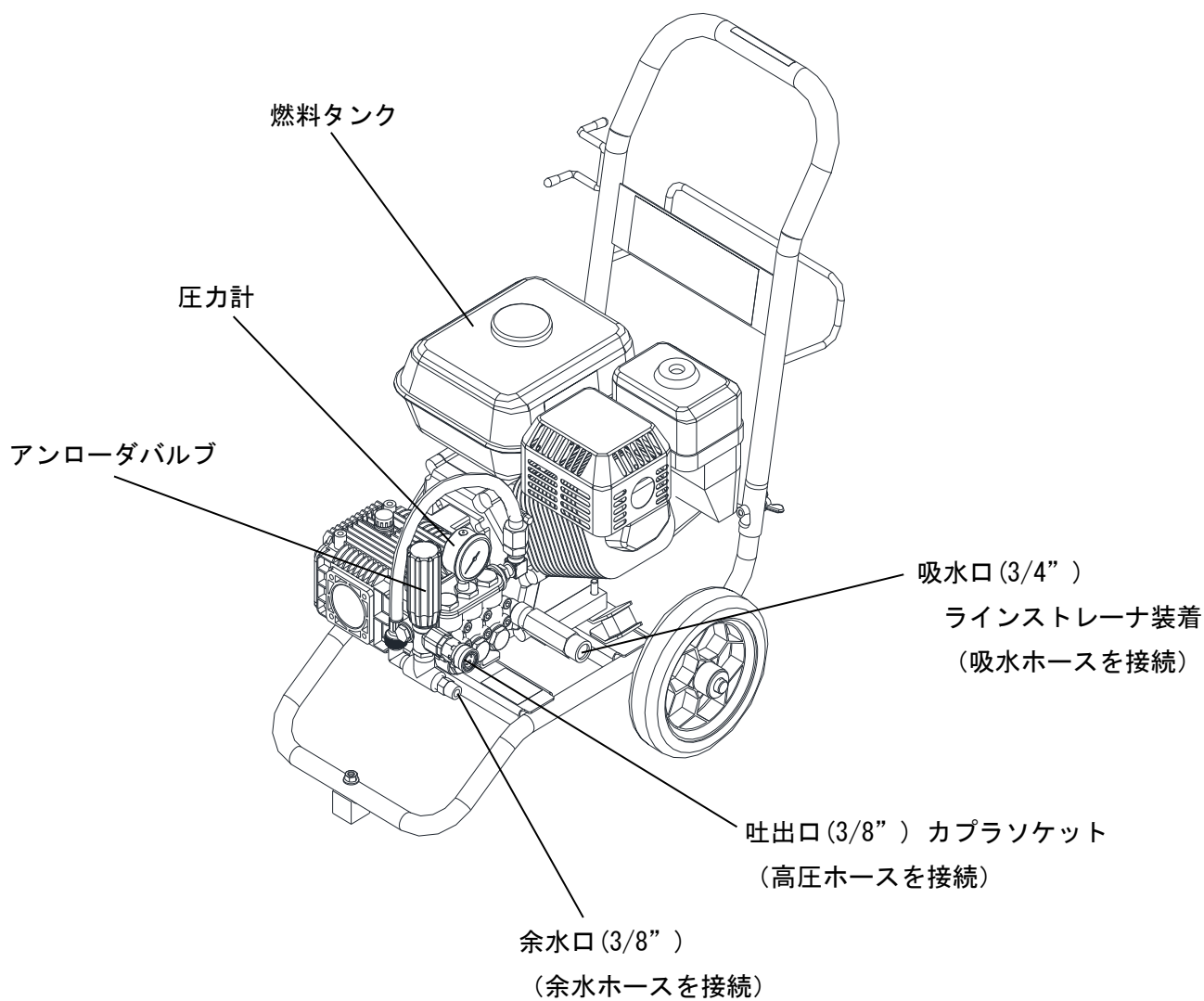
4-1 仕様一覧

	WZ13-150EX II
最大圧力	14.7Mpa(150kgf/cm ²)
吸水量	13 L/min
ピストン	セラミック3連
調圧方式	アンローダ
駆動源	エンジン ホンダ GP200
エンジン出力 常用/最大	3.7kw(5.0PS)
重量	32kg
寸法(L×W×H)	694×460×703

4-2 標準付属品

P/N	品名	数量	備考
2117811	WZガンセット 45C1549	1	ランス 450mm 扇形ノズル#1549
2118563	ホースリールセット 30m 巻	1	φ9.5×30m
2116160	吸水ホース	1	G3/4F×3m
2116151	余水ホース	1	G3/8F×3m
2116320	ストレーナ	1	G3/4F
2261412	取扱説明書	1	本体用
—	取扱説明書	1	エンジン用

4-3 各部の名称



5. 操作方法

5-1 作業条件

- 水は清水を使用し、40℃以下で使用してください。
- 吸込揚程は0.8m以内にしてください。
- 水道蛇口から直結する場合は、水量が13 L/min以上であることを確認してください。
- 本体は水平に設置し、エンジンの吸気・排気口を塞がないように壁などから離してください

5-2 運転準備及び点検

⚠注意

- 高圧ホースとポンプ(吐出口)及びガンへの接続は、カプラー方式です。接続後、確実にロック(スリーブロック)されているか必ず確認してください。
- ポンプ、ホース、ガン、エンジンの点検を行ってください。
(P11-7 メンテナンス参照)
- 吸・余水ホースを確実にポンプ(吸水口、余水口)に接続し、ストレーナ部を貯水タンクに入れます。
- このとき吸水フィルターに、ゴミ詰まりがないか確認してください。
- エンジンにガソリンを補給して下さい。満タン(約3.2L)で、約2時間の連続運転ができます。

⚠危険

- 給油時は火気を近づけないでください。また、運転中の補給は絶対しないでください。

⚠危険

- 燃料補給等で燃料タンクのキャップを開ける時は、身体に帯電した静電気を除去してから行って下さい。静電気の放電による火花により引火するおそれがあります。

⚠危険

- 燃料は給油口の口元まで入れず、給油限界位置(燃料タンク入口フィルター内の赤色刻み線)を超えないように補給してください。入れすぎると燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり、火災の恐れがあります。

⚠危険

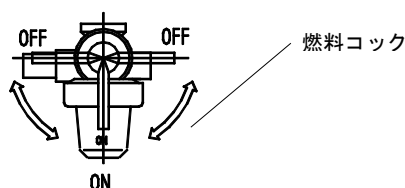
- 燃料給油キャップは確実に閉めてください。もし燃料がこぼれた時は乾いた布で完全に拭き取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。

- 高圧ホースを、よれが生じないように延ばしてください。

- 燃料コックを開きます。

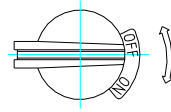
⚠危険

- 燃料タンクや送油管の接合部などから燃料もれが無いようによく確認してください。燃料もれは火災の危険があります。



5-3 運転始動

- エンジンスイッチを運転（ON）側にまわします。



エンジンスイッチ

- チョークを引きます。
チョーク開度は
 - ・寒い時やエンジンが冷えている時は
全閉にします。
 - ・暖かい時や運転停止直後再始動する場合は
全開もしくは**半開**にしてください。
- リコイルスタータを引き、エンジンを始動させ
エンジンが始動したらチョークを押し戻します。
- 余水ホースより水が勢いよく排出され始めると、
エアー抜きは終了です。
- 吸水を始めたらしばらくの間暖気運転をしてください。いきなり全負荷
運転しますとエンジントラブルの原因になります。
- 本機のエンジン回転数は、高速に固定されています。変えないでください。

※製品は出荷時に最高圧力に調整されています。

5-4 運転

⚠注意

- 貯水タンクへの水の供給は十分に行い、作業中に水が不足し空気がポンプに吸い込まれることがないように、十分に注意してください。
- 作業中にポンプ内に空気が混入した場合は、下記の項目を点検してください。
 - ・貯水タンクに水は十分入っているか？
 - ・吸水ホースの折れ、劣化がないか？
 - ・吸水ホースの接続は緩んでいないか？
 - ・接続部のOリングの損傷はないか？
- ポンプ、エンジンに直接水を吹き付けしないでください。また雨天時には、雨が直接かからないように設置してください。

5-5 運転中断



- 作業をしたままの状態ですぐにエンジンを止めると、マフラー内で未燃ガソリンに着火し、爆発音が出たり炎が噴出したりする場合があります。危険です。しばらく(2~3分間)無負荷運転してからエンジンを停止してください。
- エンジンスイッチを停止(OFF)側にまわしてください。
- ガンの引き金を引き、ホース内の残圧を抜きます。
- 貯水タンクに供給している水を止めます。

5-6 運転停止

- 吸水ホースを貯水タンクより取り出し、吸水ホース、ポンプ内の水抜きを10~20秒間行ってください。
- ガンの引き金を引き、ノズルより水を排出させます。
- 長期間使用しない時は燃料コックを閉じてエンジンが止まるまでしばらく運転し、キャブレタの中のガソリンを使い切ってください。
- 吸・余水ホース、高圧ホースを本体よりはずします。

6. 極寒時の運転及び保管のポイント



- 凍結があった場合は、暖かい場所で自然にとかしてください。
決してお湯はかけないで下さい。急激な温度変化でポンプに損傷を与えます。
- エンジンスイッチ OFF のまま、始動グリップをゆっくりと引き、シリンダー内凍結の有無を確認します。(凍結があると引けません。)
- 保管する際、気温が氷点下になることが予想される場合は、自動車用の不凍液と水を混合した溶液をポンプ、ホース内に充填させておいてください。
又は、完全に水を抜いておいてください。

7. メンテナンス

7-1 ポンプ

- オイルレベルは日常点検し、レベル内にオイルが正しく入っているか確認してください。
- オイルは検油窓の中央に油面が位置すれば適量ですが、必ず検油棒で確認してください。
- オイル交換は下記を目標に励行してください。
 - 初回 50 時間後
 - 2 回目以後 200 時間毎
 - 使用オイル 自動車用エンジンオイル (SE 級以上)
マルチグレード 10W-30
- ポンプがまだ暖かいうちに、お手持ちのスパナで本機下部のポンプオイルドレンボルト (左側) を取りはずし、オイルを抜きます。
- ポンプ給油口からポンプオイルを約 0.5 リットル入れ、検油棒にて量を確認してください。
- オイルが汚れていた時は、その都度オイル交換を行ってください。
- オイルが乳濁した時は、修理点検を行ってください。
- ポンプより水漏れが発見された場合は、パッキンの摩耗が考えられます。早急に交換修理を行ってください。

7-2 エンジン

- ガソリンエンジンの取扱説明書も合わせてよく読んでください。
- オイルレベルは日常点検し、レベル内にオイルが正しく入っているか確認してください。
- オイル交換は下記を目標に励行して下さい。
 - 初回 20 時間後
 - 2 回目以後 100 時間毎
 - 使用オイル 自動車用エンジンオイル (SE 級以上)
マルチグレード 10W-30
- エンジンがまだ暖かいうちに、お手持ちのスパナで本機下部のエンジンオイルドレンボルト (右側) を取りはずし、オイルを抜きます。
- エンジンオイル給油口からエンジンオイルを約 0.6 リットル入れ、検油棒にて量を確認してください。

7-3 ノズル

ノズルは消耗品です。定期的に交換してください。

7-4 高圧ホース

1. 使用前にホースの外皮に傷がないか確認してください。
2. ホースを伸ばす際は、よれ、キンクが生じないように注意してください。
3. 鋭角な物を接触したり、車の通路上は、ひかれないように注意してください。

※高圧ホースは若干でも水漏れ生じたら、ただちに使用をやめて交換してください。
高圧のため、非常に危険です。

8. トラブルの原因と対策

症 状	原 因	対 策
引き金を引いても ノズルから 水が吐出しない。 (吸入していない)	●ラインストレーナが詰まっている。	●ゴミを取り除く。
	●アンローダバルブ・ポンプの バルブ固着。	●吸水口か吸水ホースから水道水を 強制的にポンプに入れる。
	●ノズルが詰まっている。	●ゴミを取り除く又は交換
	●ポンプが空気を吸い込んでいる。 ●吸水ホースのOリングが未装着又は損傷	●貯水タンクに水の補給 ●吸水ホース接続の増締め ●Oリングの取付・交換
	●吸水フィルターが詰まっている。	●フィルターの洗浄又は交換
	●ポンプ内バルブ不良。	★分解・点検
吐出中、継続又は 瞬間的に圧力が 降下する。	●ポンプが空気を吸い込んでいる。	●貯水タンクに水の補給 ●吸水ホースの増締め
	●吸水フィルターが詰まっている。	●フィルターの洗浄又は交換 ●ラインストレーナの洗浄
	●アンローダ内バルブの不良。	★分解・点検
吐出圧力が低い	●ノズル口径が大きすぎる。 又は摩耗。	●ノズル点検（交換）
	●エンジンの回転数が低い。	●回転数を上げる 最大 3400rpm（定格負荷時）
	●ポンプ内パッキンの摩耗。	★分解・点検
	●ポンプ内バルブの不良。	★分解・点検
	●アンローダバルブの調整不足。	●調整ノブを右に回す。
	●アンローダ内バルブの不良。 (余水が多量に出る場合)	★分解・点検
ポンプよりオイルが 漏れている。	●オイルの入れすぎ。	●適正量となるように オイルを抜く。(0.5L)
	●オイルシールの摩耗、破損。	★交換・修理
ポンプ内オイルが乳濁 又は泡状になっている。	●水の混入。	★修理



WAGNER 日本ワグナー・スプレーテック株式会社

本 社 : 〒574-0057 大阪府大東市新田西町 2-35 TEL. 072-874-3561 FAX. 072-874-3426

札 幌 : TEL. 090-8824-4320 名古屋 : TEL. 090-1071-0884 福 岡 : TEL. 092-472-5533
FAX. 092-471-8206

関 東 : TEL. 042-379-1161 関 西 : TEL. 072-874-3558
FAX. 042-379-1166 FAX. 072-874-3426

鹿島島 : TEL. 090-8822-9963
FAX. 099-278-7165

©仕様・部品番号・価格は予告なく変更することがあります。